

安全横断

指導のてびき

【改訂版】



京都府警察本部 交通安全教育センター

はじめに

「交通安全教育」は、「交通指導取締り」や「道路交通環境整備」とともに、道路交通における安全を確保するための重要な手段です。中でも、幼児に対する交通安全教育は、幼児自身の道路における安全確保のみならず、将来、様々な方法で道路を通行するときに必要な、安全意識を育むための重要な教育です。

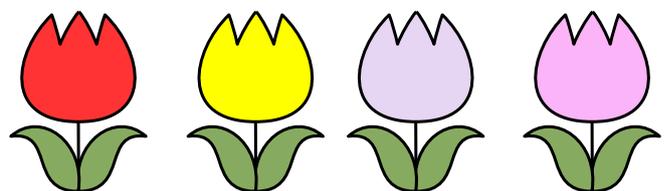
小学校に入学すれば、子供だけで歩いて登下校することとなり、現状では、歩行中に交通事故に遭う小学生のうち、1年生と2年生の児童が最も多くなっています。

そこで、近く小学校へ入学する年長児を主な対象として、子供の性格や特性を誰よりも知る保護者の方をはじめ、幼児と接する機会の多い方々が、交通安全教育をしていただくときの参考になればと、この「てびき」を作成しました。

「交通安全教育」は、命の尊さや思いやり、社会秩序を保つための「人間教育そのもの」です。

交通社会で安全に行動する能力を身に付けさせることはもちろん、他者を思いやる心を育て、悲しみの少ない、明るく住みよい社会を皆様とつくっていただければと思います。

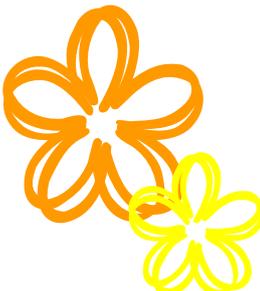
交通安全教育センター



指導のてびきの使い方

この指導書は、園（所）において、合図を取り入れた横断要領を子供たちに指導する際の参考にしていただければと思い作成しています。

あくまでも指導例ですので、園（所）周辺の交通事情や子供たちの実状に合わせて、伝わりやすいようにご活用ください。



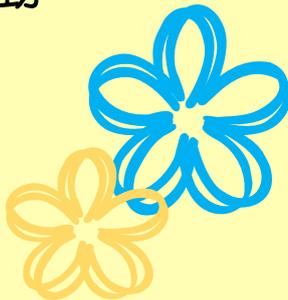
合図（手をあげる）さえすれば「安全に横断できる」、「車が止まってくれる」といった誤った理解にならないように、子供たちには、繰り返し、丁寧な指導をお願いします。



もくじ

- 指導にあたって
- ステップ1 止まる・見る
- ステップ2 合図
- ステップ3 安全な横断
- 保護者と共に

資料

- 幼児の身体的、心理的特性と交通行動
 - 車の特性等
- 

指導にあたって

1 安全確認が最も重要！

「合図」よりも重要なのは、横断前にしっかり止まる（飛び出さない）こと、周りの安全をよく確認することです。子供たちが「合図をすれば安全」と誤った理解をしないように、繰り返し指導をお願いします。

2 スモールステップ法で進めましょう！

「しっかり止まって周りをよく見ること」を繰り返し伝え、身に付いたら次の段階へ進んでください。小学校入学を見据え、より安全な行動を身に付けられるように指導をお願いします。自分を守ることが、自然な行動となるまで、時間をかけた粘り強い指導が必要です。

※ スモールステップ法とは、最初から高い目標を目指すのではなく、目標を細分化し、小さな目標を達成する体験を積み重ねながら、最終目標に近づいていく教育法です。

3 実践型の指導が効果的です！

知識としては理解できていても、実際やってみると思ったようにできない場合があります。

紙芝居や、講話で伝えるだけでなく、日常保育の中でも、部屋を出るときや廊下の曲がり角などでの安全確認と関連付けると生きた交通安全教育となります。

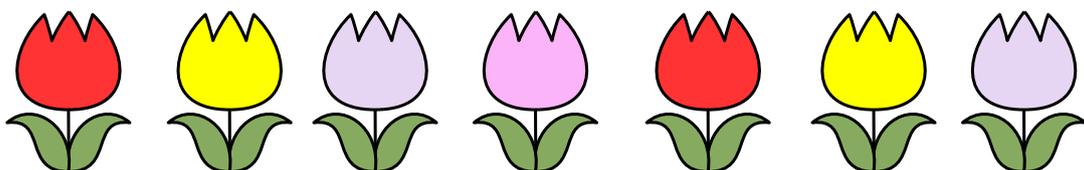
4 保護者と一緒になって指導しましょう！

園（所）だけでどれだけ教育しても、一番身近な保護者が交通安全に無関心では、子供たちの安全意識は育ちません。

「お便り」などを通じて、保護者に園での交通安全教育や保護者の担うべき役割を発信し、子供たちが家庭でも交通安全について学べる環境づくりを心がけてください。

5 その他の指導事項と連動して教えましょう！

この手引きは、あくまでも信号機のない横断歩道を横断する際の指導要領をまとめたものです。歩き方や信号のある横断歩道での横断など、その他の指導と連動させて指導してください。



ステップ1

止まる・見る

めあて： 道路を横断するときは、止まる（飛び出さない）こと、周りの安全をよく確認することを指導しましょう。

※ 指導時間に合わせ、個々の項目を分けたり、組み合わせたりして指導してもかまいません。

項目	内容	備考
なぜ止まるのか	<ul style="list-style-type: none">○ 止まらない場合（飛び出し）の危険性<ul style="list-style-type: none">・ 紙芝居などの物語を通して理解させる・ なぜ、危険なのか、どうすればよかったのか問いかける	
どこで止まるのか	<ul style="list-style-type: none">○ 飛び出しにつながりやすい場所<ul style="list-style-type: none">・ 家や公園から道路へ出るとき・ 曲がり角や交差点・ 横断歩道 など	身近な道路の写真や絵パネル等を活用するとよい
安全確認の方法	<ul style="list-style-type: none">○ 目だけでなく、しっかり顔を向けるなどして、周りの安全をよく確認する（何を見るのかを考えさせる）○ 交差点では、右左折する車があるため、全ての方向（道の数だけ）の安全を確認する○ 耳を使った安全確認<ul style="list-style-type: none">・ 車やバイクの音・ 緊急自動車の音 など	

指導例：訓練

〈とまってよく見て！〉

- ① 子供たちをその場で歩かせる
- ② 笛の音などでその場で止まる練習をする
- ③ 止まれるようになれば、止まった後に周りを見させる
- ④ 子供達に見えたイラスト等についてたずねる（見せるものについてはぬいぐるみ等を使用してもよい）



指導例：紙芝居

〈ポテオとトマコのさかなつり〉

飛び出しの危険や安全な道路の横断について楽しく学べる紙芝居です。



〈URL〉

<https://www.youtube.com/watch?v=ZT07GnnJdD8>

ステップ2

合図

めあて： 合図をするとき、道路で行う合図や、相手に渡りたい意思を伝えるための方法について考えさせましょう。

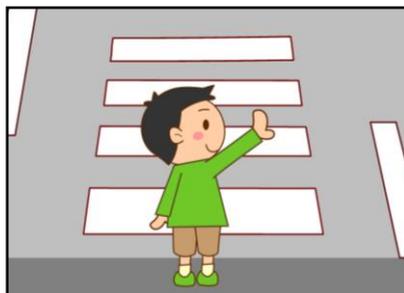
※ 指導時間に合わせ、個々の項目を分けたり、組み合わせたりして指導してもかまいません。

項目	内容	備考
合図について	○ 紙芝居などを通じて <ul style="list-style-type: none">合図はどのようなときにするのか道路で行う合図 などについて考えさせる	
伝えることの重要性	○ 運転者に横断する意思を伝えることについて具体的に考えさせる <ul style="list-style-type: none">手のひらを見せる顔を向ける目を合わせる など、より相手に伝わりやすい方法について伝える	
止まる・見るからの合図	○ ステップ1で習得した「止まる・見る」に合図を加えた流れを練習する	

指導例：紙芝居

<あいず>

子供たちに、「合図」はどのようなときにするのかを伝え、横断時の「合図」や意思疎通について楽しく学べる仕掛け紙芝居です。



<QRコード>



<URL>

http://www.pref.kyoto.jp/net_tv/kesatsu/138.html

※ 京都府警察のホームページに紙芝居動画をアップしています！



ステップ3

安全な横断方法

めあて： 「止まる・見る」に「合図」を加えた横断について理解させ、実際にできるように指導しましょう。

※ 指導時間に合わせ、個々の項目を分けたり、組み合わせたりして指導してもかまいません。

<p>項目</p> <p>安全な道路の横断の流れ</p>	
<p>横断歩道の安全な横断方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全な横断の流れについて指導する <ul style="list-style-type: none"> ・ 横断歩道の無い場所を渡ると危険なことを知らせ、少し遠回りになっても、安全に渡れる横断歩道を渡る ・ 横断歩道などを渡る前には、止まって周りの安全を確認する ・ 手のひらと顔をドライバーに見せて、渡る意思を知らせる「合図」をする ・ 車が止まるまで待つ ・ 車が止まったらドライバーの目（顔）を見て、<u>自分に気づいていることを確認する</u> ・ 横断中も車が近づいてこないか注意しながら、走らず、まっすぐ渡る。 ○ 横断歩道で車が停止した場合の渡り方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 停止した車の側方から通過しようとする車や対向車に注意する
<p>模擬道路で訓練</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 横断歩道の安全な横断 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園へ行くなど、身近な通行コースを設定し、止まる位置、安全を確認する方向、確認すべきものを具体的に教える ・ 単路、交差点での車の動きの違いを理解させる

指導例：絵パネル

<5つのやくそく>

安全に道路を渡るための行動を5つの約束としてまとめた絵パネルです。



<うんてんしゅさん>

なにみてるの?>

ドライバーの目線に興味を持ってもらうための絵パネル教材です。



保護者と共に

めあて： 子供たちの成長にとって、一番身近な存在である保護者の果たす役割は極めて大きいものがあります。交通安全教育においても家庭における声かけや保護者自身が交通ルールを遵守することの効果について伝え、理解を得ましょう。

項目	内容	備考
幼児教育における保護者の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園（所）での子供たちの様子などから、保護者の影響力について伝え、家庭での保護者の役割や交通安全教育の必要性を理解してもらう ○ 保護者自身が交通ルールをしっかり守る重要性を伝える ○ 親子で歩く機会を増やす ○ 安全な道路の横断について理解させ、家庭において指導してもらう 	
幼児の保護	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親子で歩くときには <ul style="list-style-type: none"> ・ 手をつなぐ ・ 保護者が車道寄りをおく ○ など、子供を保護することを伝える 	

指導例：動画教材

京都府警察ホームページに交通安全に係る動画や紙芝居などを多数アップしています。是非子供たちとご覧ください！

<QRコード>



<URL>

https://www.pref.kyoto.jp/fukei/kotu/koki_k_t/kids_movie/index.html



子供たちにどう教えたらいいの？

京都府警の交通安全動画コンテンツ紹介！

ここからチェックしてみてね！

<QRコード> <URL>

https://www.pref.kyoto.jp/fukei/kotu/koki_k_t/kids_movie/index.html

さくら巡査と学ぶ交通安全

交通安全おはなし紙芝居

交通安全ソング&ダンス

京都府警察のホームページは、他にも親子で楽しめるコンテンツが盛りだくさん！是非アクセスしてみてください！

指導例：お便りヒント集

保護者向けのお便りを作成する際のヒント集を、京都府警察のホームページに登載しています。

そのままでも、一部を切り取っていただいても結構ですので、活用してください。

<QRコード>



<URL>

http://www.pref.kyoto.jp/fukei/kotu/koki_k_t/info/ant/index.html



安全に道路を渡る！



安全に渡る

幼児の身体的、心理的特性と交通行動

● 身体的特性

● 見える範囲は大人と異なる

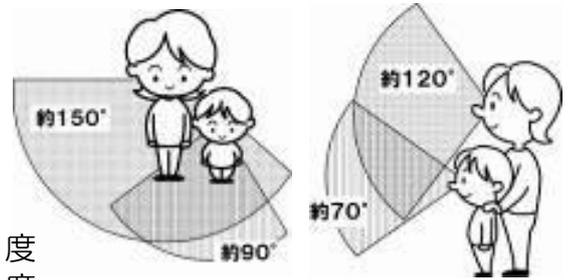
水平方向の視野・・・大人約 150 度 幼児約 90 度

垂直方向の視野・・・大人約 120 度 幼児約 70 度

大人は信号機を容易にとらえることができても、幼児は身長が低いため見えていない場合もあります。同じ目線になって確認するようにしましょう。

「右、左を見て」という指導だけでは理解できていない場合がありますので、発達段階に合わせて、何が見えているのか、何を見えるのか、何が危険なのか具体的に指導することが大切です。

幼児の視野:スウェーデンのサンデルスの研究より



● 心理的特性と交通行動

● ひとつのことに夢中になると他に注意が向かない

自分の興味をひくものに出会ったりすると、安全を確認することを忘れて、道路に飛び出すことがあります。

● そのときどきの気分によって行動が変わる

嬉しいことがあると飛び跳ねたりはしゃいだりし、逆に叱られたりするとそのことで頭がいっぱいになり、まわりへの注意が疎かになります。

● 物事を単純化して理解する

「横断するときには手を上げて」と教えられると、いつでもどこでも、手を上げさえすれば、横断しても良いのだと思いこむ傾向があります。

● 抽象的な言葉は理解できない

「危ないから気をつけて!」というような具体性のない言葉では、何にどう気をつければ良いのか理解できません。

● 大人のまねをしたり、大人に依存しやすい

幼児は大人のように周囲の状況について十分に判断ができないため、大人のすることをよくまねます。それが危険なことでも安全なことでもまねるのです。また、まわりに大人がいることで自分で判断することなく、大人に依存してしまう傾向があります。

● 応用することが難しい

通り慣れた道では安全に歩けても、別の道路でも安全な行動ができるとは限りません。ひとつのことを身に付けても、それを他の場面にまで応用することは難しいのです。

● 物陰を好む傾向がある

ちょっとした物陰で遊びたがる傾向があります。ガレージ内の車の陰等にかくれんぼをしたり、止まっている車の側でしゃがみ込んだりすることがあり、それが危険であることが分かりません。

車の特性

● 車の停止距離とスピード

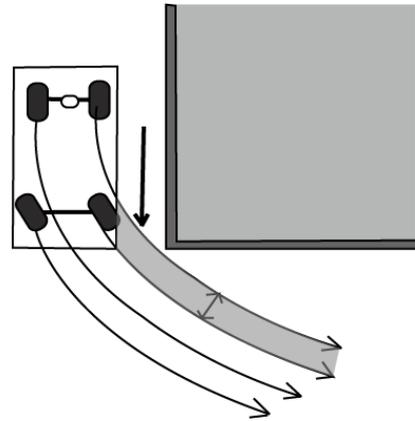
時速	秒速	空走距離	制動距離	停止距離	停止時間
40km/h 	11.1m	約 8.3m	約 8.9m	約 17.2m	約 2.3秒
60km/h 	16.6m	約 12.5m	約 20.2m	約 32.7m	約 3.1秒
80km/h 	22.2m	約 16.6m	約 35.9m	約 52.5m	約 3.9秒

- ※ 乾燥道路の場合で湿潤時は約 1.5 倍、凍結時は約 3 倍距離がのびる。
- ※ 停止距離は空走距離(危険を感じブレーキを踏んでいき始めるまでの距離)と制動距離(ブレーキがきき始めてから止まるまでの距離)を合わせたものです。

● 車の死角と内輪差

● 内輪差

車が右左折する時には、内輪差(曲がる時後輪が前輪より内側を通る)が生じます。大きな車になるほど内輪差が大きくなります。巻き込まれる危険があるので、方向指示器等を出して曲がろうとしている車があれば、少し下がって待つなど、近づかないように指導しましょう。



● 死角

車には、ドライバーから見えない場所(死角)があることを知らせましょう。死角になりやすい部分をパネル等で示し、信号待ちなどの際に、特に大型車等のすぐ横にいたりすると死角に入りやすく、ドライバーからは見えていないことがあるので、大変危険であることを指導しましょう。

